



今から約370年前の細川藩主の御茶屋として記録が残る威風堂々の木造温泉「さくら湯」。明治初期の大改装以降、市民温泉として愛されてきた山鹿の元湯が、昔の面影そのままに、ここに再生されました。唐破風のある南北の玄関や十字にクロスした独特の屋根の形、貴賓客が使用した「龍の湯」など、江戸期の建築様式を可能な限りに再現した「さくら湯」。他の温泉では味わえない圧倒的なスケールと趣を、ご堪能ください。



さくら湯入館情報

❖開館時間/6:00~24:00

❖休館日/第3水曜

❖入湯料
大人:(中学生以上)300円/障がい者150円
子ども:(3歳以上小学生以下)150円/障がい者80円
<回数券>
大人/12枚 3,000円、30枚 6,000円
子ども/12枚 1,500円、30枚 3,000円

❖駐車場/さくら湯南側(9台)
マイクロバス専用あり

さくら湯近隣駐車場マップ

さくら湯提携駐車場(さくら湯ご利用により2時間無料)

○P①:温泉プラザ山鹿「屋上駐車場」…有料
○P②:温泉プラザ山鹿「北側駐車場」…有料

近隣駐車場

○P③:スポーツプラザ跡駐車場…無料駐車場(150台)
○P④:有料コインパーキング(10台) ○P⑤:有料コインパーキング(10台)
○P⑥:有料コインパーキング(7台)

アクセス

❖阿蘇くまもと空港利用
阿蘇くまもと空港→九州産交バス約50分→熊本交通センター→九州産交バス約40分→山鹿バスセンター

❖新幹線利用
JR博多駅→九州新幹線約40分→JR新玉名駅→九州産交バス約50分→山鹿バスセンター

❖高速バス利用
[菊水IC降車]→山鹿バスセンター行き乗車 約25分
[植木IC降車]→山鹿バスセンター行き乗車 約30分

❖高速道路利用
[菊水IC]→県道16号線経由 約10Km 約15分
[植木IC]→国道3号線経由 約12Km 約20分

〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1番地1
☎0968-43-3326 FAX 0968-43-3325



山鹿温泉の
新たな歴史が
始まる

山鹿温泉元湯
さくら湯



九州最大、江戸期の建築様式を色濃く残す大浴場「さくら湯」

平成24年11月23日開湯



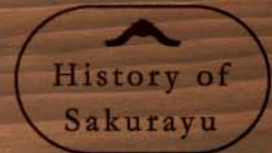
女湯 男湯

解放感ある大浴場で、 贅沢な山鹿の湯を お楽しみください。

木造の梁や柱がむき出しになった、
迫力のある吹き抜け空間が広がる大浴場「さくら湯」。
まろやかな肌ざわりで地元の方にも定評のあるお湯は、
もちろん源泉かけ流し。浴槽の背もたれにもたれて
お湯を楽しんだ後は、浴槽の奥にある「飲浴室」で休息を。
ゆっくりじっくり、至福の時をお過ごしください。



さくら湯の歴史



さくら湯浴室を南側にも拡張し、唐破風の玄関と更衣室を増築。この改修により、南北に唐破風玄関を備え「十字クロス構造」という、さくら湯最大の特徴的構造が完成した。

昭和四年



十字クロス構造



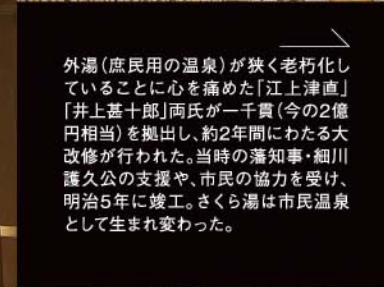
江戸期

熊本城主の肥後細川藩初代藩主、細川忠利公が山鹿の温泉をたいへん気に入り、寛永17年(1640年)にさくら湯の起源となる御茶屋を新築。完成の際には、剣豪宮本武蔵を招待したことが、細川藩奉書に記録されている。また、宝暦13年(1763年)に描かれた山鹿町絵図では、その頃の様子がうかがえる。



昭和三十三年

さくら湯の浴槽と洗い場の床面が上げられ、浴室と更衣室の間にガラス窓とガラス引き戸がつき、浴槽の形の変更と浴槽内の柱が撤去された。松の湯と紅葉湯も改修。松の湯が男湯、紅葉湯が女湯とされ、明治以来の雰囲気が一変した。



明治三十五年

外湯(庶民用の温泉)が狭く老朽化していることに心を痛めた「江上津直」「井上蒼十郎」両氏が一千貫(今の2億円相当)を拠出し、約2年間にわたる大改修が行われた。当時の藩知事・細川護久公の支援や、市民の協力を受け、明治5年に竣工。さくら湯は市民温泉として生まれ変わった。



昭和46年8月に起きた市内中心部の大火により再開発議論が活発化。昭和48年、大規模再開発事業によりさくら湯の解体が始まった。昭和50年に再開発ビル(温泉プラザ山鹿)が完成し、さくら湯はビル内に造られ、平成21年11月まで、営業を続けた。

昭和五〇年



3年の時を経て、さくら湯が再び開湯。九州最大、江戸期の建築様式を色濃く残す大浴場として、昔の趣をそのままに再現。山鹿温泉の元湯として、再び新たな歴史が幕を開ける。



明治三十一年

道後温泉の棟梁・坂本又八郎氏を招いて行った明治31年の大改修では、二階建ての休憩施設・松風館を新築。龍の湯・御次の湯の棟はそのままに「松の湯」を作り、龍の湯(来賓湯)、松の湯(一等)、紅葉湯(二等)、さくら湯(三等)とされた。浴室も北側に拡張され、この際に、どっしりとした「唐破風玄関」が造られた。



平成二十四年

施設の見どころ



迫力と格調ある 南北の「唐破風玄関」

凝った造りの唐破風が印象的な玄関。この唐破風は、解体の際、大切に保管したものを使っている。古の職人の技と歴史を感じることができる



貴賓客にふさわしい 「龍の湯」

殿様のための御前湯として作られたという「龍の湯」は、市松模様が粹な大理石の床と龍の天井画が特徴。展示用の部屋だが、凝ったしつらいは一見の価値がある



多目的な和室「池の間」

龍の湯の休憩室として使われていた「池の間」は、障子越しに庭を望む落ち着いた和室。お茶会など各種イベントや憩いの場として利用できる



気軽に喉を潤せる「飲浴室」

男湯、女湯には、それぞれ飲浴室が設けられている。慢性胃腸病などに効果があるといわれているお湯は、入浴の休憩時に飲むことができる



情報満載「観光案内所」

山鹿の観光情報をぎゅっと集めた観光案内所を設置。観光パンフレットや情報誌が手に入る。誰でも自由に入れるので、気軽に立ち寄りください



歴史紐解く「温泉資料室」

今から800年以上前にさかのぼる山鹿温泉の歴史を、絵図や写真などとともに展示。さくら湯の歴史の変遷も知ることができる